

## 協力団体会員とともに市街地で自衛隊をPR

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）静岡募集案内所は10月24日（日）、静岡駅北口地下広場イベントスペース（静岡市）において広報活動を実施した。

この活動は今年度から始めたもの。これまでは静岡所の所員のみで行っていたが、緊急事態宣言が解除されたため、今回は協力者である自衛官募集相談員と、自衛官の子供を持つ静岡自衛隊家族会の会員とともに実施した。

ブースには、自衛隊の活動を紹介するパネルや伊豆山土砂災害での災害派遣活動を写した写真、自衛官の制服や記念章などを展示し、市街地へ向かう多くの人が足を止めて見入っていた。

立ち寄った子供たちには、募集相談員や家族会員が海上自衛隊のシールや所員が作成した自衛隊オリジナル缶バッジをプレゼントし、子供たちは目を輝かせて喜んでいました。

また、今回初めての試みとして、防衛省ホームページ内の「自衛隊検定」を活用したクイズコーナーを設置。来場者からは「難しかったが、自衛隊のことをさらに知ることができた」と好評だった。

さらに、家族会員が家族側から見た自衛隊について来場者に伝えると、「家族目線の話が聞くことができ、より一層自衛隊を身近に感じることができた」といった感想が聞かれた。

静岡地本は、協力者と引き続き連携をとって多くの県民に自衛隊を周知するとともに、自衛官を目指す若者やその家族の進路のナビゲーターとなるように努めよう。



## 我が子が活躍する自衛隊について学ぶ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は11月12日（金）、航空自衛隊静浜基地（焼津市）で行われた静岡自衛隊家族会の研修を支援した。

同会は静岡市葵区と駿河区の隊員家族で構成されており、我が子が活躍する自衛隊を見学し、理解や防衛意識を高め、活動の資とするため研修を実施している。今回は河原清副会長をはじめ7人の会員が参加し、新型コロナウイルス感染症対策のもと、少人数での実施となった。

はじめに基地広報資料館において航空自衛隊の日々の活動や基地の概要説明を聞き、その後、滑走路が見える屋外に移動し、消防小隊が使用する破壊機救難消防車などの各種装備品について説明を受けた。

続いて、パイロットを目標として航空学生として入隊し訓練を受けている隊員が、T-17初等練習機の機体点検を真剣な面持ちで学んでいる姿や、同型機で飛行訓練を行っている姿を見学した。

その後、補給隊では、災害や大規模航空機事故などが発生した際に被災者の捜索・救助のために使用する「人命救助システムII型」の説明を受けた。参加した家族会員の中には同隊に子供の幼馴染がいる人もおり、久しぶりの再会に盛り上がる姿も見られた。

参加者からは「勤務地は違っても、我が子もこのような環境で勤務や生活をしていることを知ることができて、安心して」「幼馴染の子の成長した姿を見ることができて、いい思い出になった」といった感想が聞かれた。



静岡地本は、今後も家族会と連携を図り、地元出身隊員の激励と会員の防衛意識の高揚を図っていく。

